

◎景気ウォッチャー調査[2021年1月]

2021年1月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断DI(合計)は、前月を3.6ポイント下回る32.8となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「緊急事態宣言が発令されて以降、高齢者を中心に来客数が減少している。限られた富裕層の購入は大きくは落ち込んでいないが、全体をカバーするには至っていない。」(百貨店)、「Go To Travelキャンペーンの一時停止による宿泊のキャンセルと新規予約の減少で、施設の利用者が激減している。また、一般の利用者も外出の制限により減少している。」(観光型ホテル)等の理由から、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を3.7ポイント下回る29.1となった。

企業動向関連は、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「相変わらず新規商談の動きは鈍く、手持ち工事量の上積みは少なく、受注残の減少が続く。」(輸送用機械器具製造業)、「新型コロナウイルスの急激な感染拡大で、取引先と商談する機会が激減、外出や出張が原則禁止され、一気に不況に陥っている。」(通信業)等の理由から、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を5.8ポイント下回る41.9となった。

雇用関連は、前月と同ポイントの39.7となった。

	1月	12月	前月差
合計	32.8	36.4	-3.6
家計動向関連	29.1	32.8	-3.7
企業動向関連	41.9	47.7	-5.8
雇用関連(参考値)	39.7	39.7	0.0

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断DI(合計)は、前月を5.6ポイント上回る42.5となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が減少し、「サービスを中心に予想以上に来客数が増加するなど景気回復に向けての明るい要素が出てきていることから、今後、景気はやや良くなる。」(乗用車販売店)、「時短営業が終われば多少は人の流れも良くなる。現状、新型コロナウイルスがある程度落ち着いてきており、今後は外出する人が増加する。楽観視はできないが、今が底である。」(一般レストラン)等の理由から、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を8.4ポイント上回る43.3となった。

企業動向関連は、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「受注量や販売量の動きから判断すると、景気は悪くなる。」(一般機械器具製造業)、「新たな景気回復要素が見当たらないため、当面は景気は良くなる。」(輸送用機械器具製造業)等の理由から、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を1.2ポイント下回る39.0となった。

雇用関連は、前月と同ポイントの44.1となった。

	1月	12月	前月差
合計	42.5	36.9	5.6
家計動向関連	43.3	34.9	8.4
企業動向関連	39.0	40.2	-1.2
雇用関連(参考値)	44.1	44.1	0.0